

平成22年度 全国学力・学習状況調査における 神野小学校の結果の分析と今後の指導について

平成 22 年 10 月 19 日
神野小学校 校長 江口美好

文部科学省は平成 22 年 4 月 19 (月)、20 日 (火)、全国の抽出校と希望校の小学 6 年生児童および中学 3 年生生徒を対象に、国語と算数(数学)の基礎学力と活用力をみる学力調査と、基本的生活習慣・学習習慣をみる学習状況調査を行いました。

調査結果は、平成 22 年 8 月に全国平均正答率と都道府県別平均正答率という形で報告されました。[佐賀県教育委員会](#)および[佐賀市教育委員会](#)でも調査結果の分析が行われ、今後の指導方針が打ち出されています。

神野小学校におきましても、「校内学力向上検討委員会」を組織し、「国語・算数の知識・技能」「国語・算数の活用力」「生活習慣と学習習慣」の 3 つの視点で本校の調査結果を分析し、児童の学習の定着状況と生活面の特徴をとらえ、今後の指導方針を立てました。調査は 6 年生のみが対象ですが、学習の理解の状況や基本的生活習慣に関する傾向は全校の児童にも相通じるところがあり、調査結果を分析・考察することで、今の子どもたちの学習の理解や生活の様子が見え、今後の指導に活かすことができると考えています。

このホームページでは、平成 22 年度の神野小学校 6 年生児童の学力(基礎・基本と活用力)と生活習慣・学習習慣の状況、そして今後の指導方針についてお知らせいたします。

1 この調査の主旨と調査の内容

■ 調査の趣旨(文部科学省より)

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校などが全国的な状況との関係において自らの教育および教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、あわせて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

■ 調査期日

- 平成 22 年 4 月 20 日(火)

■ 調査の対象学年および対象者数

- 全国の抽出校と希望校の小学 6 年生児童および中学 3 年生生徒 (神野小学校は 6 年生 138 名)

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

- 主として「知識」に関する問題(国語 A テスト, 算数 A テスト)
 - ・ 身に付けておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容
 - ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- 主として「活用」に関する問題(国語 B テスト, 算数 B テスト)
 - ・ 知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容
 - ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などに関わる内容

(2) 生活習慣に関する質問紙調査

- ・ 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査

2 調査の結果について

(1) 学力テストの全体的な結果

- 今回のテストでは、国語と算数の 2 教科で基礎的知識や技能を問う A 問題と、知識や技能を実際の生活場面に生かす力を問う B 問題の 2 種類が実施されました。全国平均と都道府県別平均については 8 月に結果が公表されました。全国の平均正答率は、B 問題では記述式問題に正答率が低い問題がありました。一方、A 問題の正答率は B 問題より高いものの、設問ごとにみると課題があるものもあります。後の学習内容の理解に影響があるため、A 問題の課題についても留意が必要です。
- 神野小学校の子どもたちの結果は、国語 A 問題, 算数 A 問題, 算数 B 問題において全国平均と佐賀県平均を上回っており、学習内容の良好な定着状態がみられました。国語 B 問題においては、佐賀県平均は上回っていたものの、全国平均を下回っていました。授業において「活用力」を高めるような授業改善や家庭学習の工夫を図る必要があると考えます。

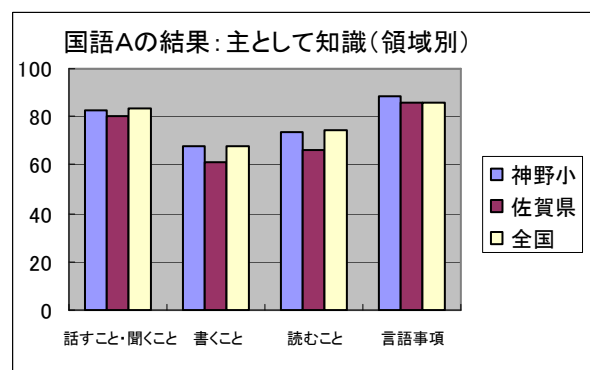
(2) 国語の調査結果

①全体概要

- 基礎的知識をみるA問題と、活用力をみるB問題のいずれも県平均を上回っています。全国平均と比べると、A問題については全国平均とほぼ同じか一部上回っていますが、B問題については下回っているものもみられます。全体的には、基礎的な言葉や漢字の知識・技能はよく定着していると言えます。一方、A問題で15問中11問以上(約7割以上)正答した児童が86%だったのに対して、B問題で10問中7問以上(約7割以上)正答した児童は64%でした。このことから、国語の学習で学んだ知識や技能を活用して、文章を読み取ったり、自分なりに工夫して考えを効果的に書いたりする力については、もっと伸ばすような指導の工夫・改善が必要と思われる。
- A問題は、漢字の読み書きや文章表現の工夫、事柄の順序などの文法的な内容が主な問題です。定着率が高かった理由は、学校や家庭で何度も繰り返し学習した結果だと考えられます。
- B問題は、国語で学習したことを実生活の場面に活用して考えたり、表現したりする問題でした。子どもたちがこれまでにあまり経験したことのない問い方で問題が出されていたり、日頃の生活場面で課題をもってしっかり考えることが求められたりしていました。学習したことを生活場面で活かせるように、日頃から心がけて指導を行う必要があると思われる。

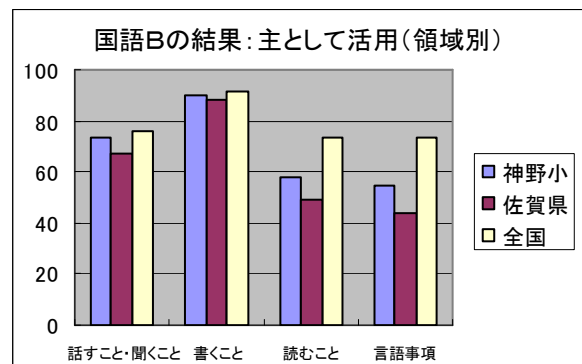
②A問題(基礎問題)の結果から

- 国語A(基礎)問題における学習指導要領の領域別の学習状況は右のグラフのとおりです。
- 「話すこと・聞くこと」の領域の、聞き手が理解しやすいように話の全体の組み立てを工夫する問題は、83%の正答率でした。スピーチ発表会のような実際の場を設定し、教科書で学習した〈聞き手に分かりやすい話の組み立て方〉を活用させる指導が効果的だったと思われる。
- 「書くこと」の領域の、自分の考えが明確になるように、文章全体の組み立ての効果を考えて書く問題は、75%の正答率でした。しかし実際に、文と文との意味のつながりを理解し、文の筋道を考えて書く問題は、60%の正答率でした。今後は、作文や日記を書く機会を多く与えて、その中で文及び文章の組み立てに関する指導を丁寧に行い、きちんと書く力を伸ばしていきたいと思えます。
- 「読むこと」の領域の、説明的な文章の内容を的確に押さえながら読む問題は、87%の正答率でした。しかし、文学的な文章に登場する人物同士の関係を読みとる問題は、60%の正答率でした。今後は、授業の中に、教科書教材と関連させた読書活動を取り入れるなど、文学的な読み物に親しませながら読みとる力を高めるように心がけたいと思えます。
- 「言語事項」の領域の、5年生までに学習した漢字を読んだり書いたりする問題は、いずれも8~9割を超える正答率でした。しかし、漢字を書く問題の中には、無回答も見られました。宿題や小テストなどを通して、確実に定着を図りたいと思えます。



③B問題(活用問題)の結果から

- 国語B(活用)問題における学習指導要領の領域別の状況は右のグラフの通りです。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、資料の効果的な使い方を問う問題の正答率が、約83%でした。国語科のスピーチ発表会や総合学習の発表会に向けて、授業で学んだ〈資料の効果的な使い方〉を活用させる学習を多く取り入れたことの結果だと考えられます。
- 「読むこと」の領域の正答率は、58%でした。県平均に比べると9ポイントほど上回ったものの、全国平均に比べると、15ポイントほど下回りました。特に、物語を読んだ感想を書く問題の正答率が低かったです。今後、朝の読書や図書館での読書の後に一言感想を書かせたり、読書会の中で感想を交流させたりするなどの表現活動を取り入れるよう心がけたいと思えます。
- 「言語事項」の領域の正答率は、54%でした。県平均に比べると11ポイントほど上回ったものの、全国平均に比べると、20ポイントほど下回りました。習得した漢字や言葉を実生活で使えるように、読書や新聞を読む学習と関連させて、漢字や言葉の文章の中での使われ方に関心を持たせながら、指導を行いたいと思えます。



(3) 算数の調査結果

①全体概要

○ 基礎的知識をみるA問題と、活用力をみるB問題のいずれも全国平均・県平均を上回っており、良好な定着状況がみられます。A問題では、19問中13問以上(約7割以上)正答した児童は78%で、数や量の知識や、計算・測定の技能についての定着状況は良好です。このことは、児童が授業で理解したことを学校や家庭で反復して練習することによく努力した成果だと考えます。

一方B問題では、全設問で正答率は佐賀県平均より上回っているものの、12問中9問以上(約7割以上)正答した児童は29%でした。選択制でなく記述式の解答方法に慣れておらず、解答欄が無答になっている児童が15%程度いました。このことから、思考力・判断力・活用力を育てるような問題解決学習や学習活動を取り入れるなどの指導法の工夫・改善とともに、常に理解した内容を自分なりの言葉で「言語化」させる活動の積み重ねが必要と思われる。

②A問題(基礎問題)の結果から

○ 算数A(基礎)問題における学習指導要領の領域別の状況は右のグラフのとおりです。

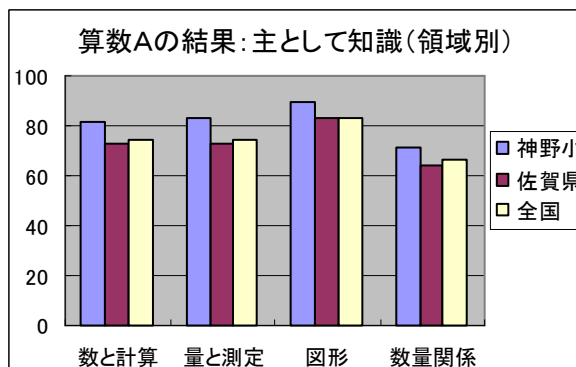
○ 整数、小数、分数の基本的な四則計算は、ほぼ9割近い正答率で計算力はおおむね定着していると考えられます。

しかし、加法と乗法の混合した整数の計算では、計算のきまりに関する理解があいまいで誤答となった児童がやや多かったようでした。また、商が1以下の小数のわり算や商が分数となるわり算の立式にも誤答がやや多かったようです。これらの課題については理解学習の後、例題、類題プリント等の反復学習を通じて習熟を図っていきたいと考えます。

○ 長さや角・面積を求める問題や基本的な平面図形の定義や性質についての力を見る問題でも、ほぼ8割以上の正答率でおおむね定着していると考えられます。

○ 立方体の展開図や対角線の理解、平行四辺形の作図等、図形に関する問題でも9割近い正答率でおおむね定着していると考えられます。

○ さらに基礎・基本のより一層の定着を図るために、ティームティーチングや少人数授業によるきめ細かな指導を充実させたり、多くの練習問題に取り組みせたりするなどして、確かな力をつけさせるとともに、家庭学習でも復習の課題を計画的に出したいと思えます。学習内容の確かな定着には家庭学習は極めて重要です。チェックや励ましをよろしくお願いします。



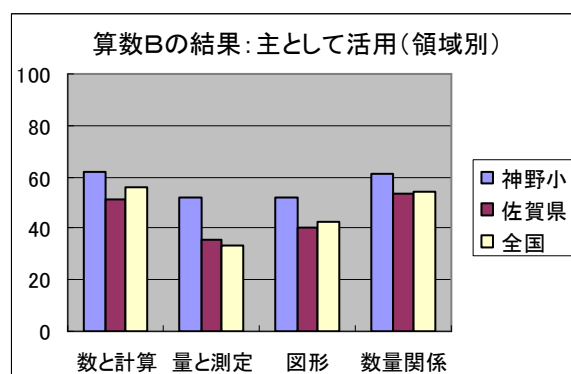
③B問題(活用問題)の結果から

○ 算数B(活用)問題における学習指導要領の領域別の状況は右のグラフのとおりです。

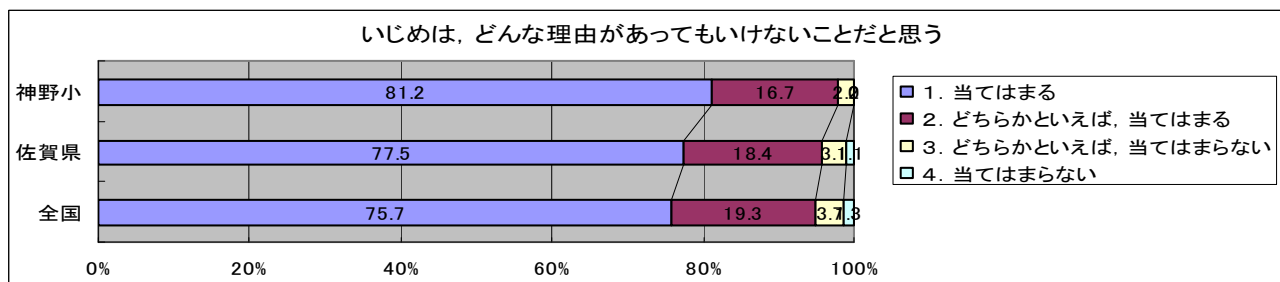
○ 全ての問題(12問)について県平均より正答率が高く、活用に関する力もかなり定着しつつあると考えられます。特に示された式を解釈する問題、平行四辺形になされた説明を台形に適用する問題、割合をもとにして基準になる量を選び、その理由を述べる問題、与えられた条件や図形の定義、性質を基に図形を判断する問題では、県の平均を10%以上も上回っていました。このことは、問題を解決する際に、問題の状況を絵や図に表して考えたり、解決方法を言葉や式などを用いて筋道を立てて説明したりする学習を行ってきた成果だと考えられます。

○ 示された図や考えを基に、長さの大小を判断し、その考えを記述する問題は正答率が18%と低く、県平均11%からみても難易度の高い問題でした。理由を選択する問題では正答率が高く、記述式になると正答率が低くなるのは、常に理解した内容を自分のなりの言葉で「言語化」させる活動の積み重ねが必要です。文章化させる指導については国語科との関連も含めながら、全教育課程で取り組む必要があるようです。

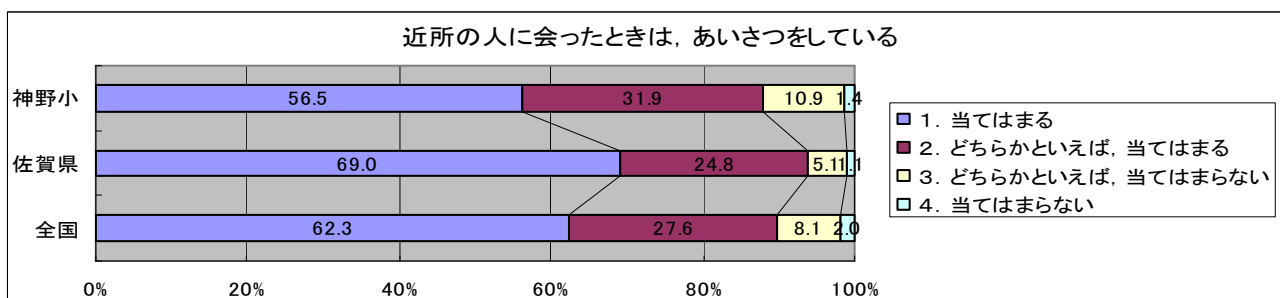
○ 活用力を育てるためには、その前提となる基礎・基本の定着はもとより、活用する経験をさせることも必要だと考えます。学校や家庭において、学習で得た知識や技能を活用するような機会を与えて、活用力を伸ばしたいと思えます。



(4) 学習状況調査の結果から
 〈規範意識等〉

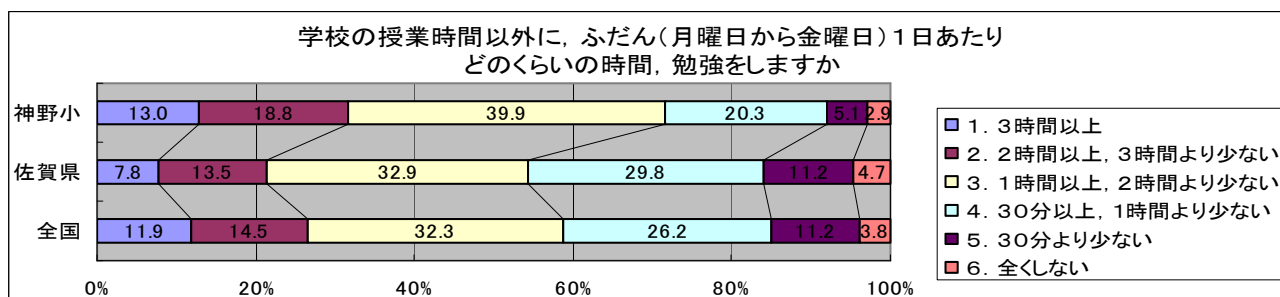


○ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている子どもの割合は、81.2%で、県平均の77.5%を上回っていました。「いじめ・いのちを考える日」を中心に、保護者と連携して、いじめをなくす取り組みを行ってきた成果の現れだと思えます。100%になるよう、この取り組みを続けていきたいと思えます。

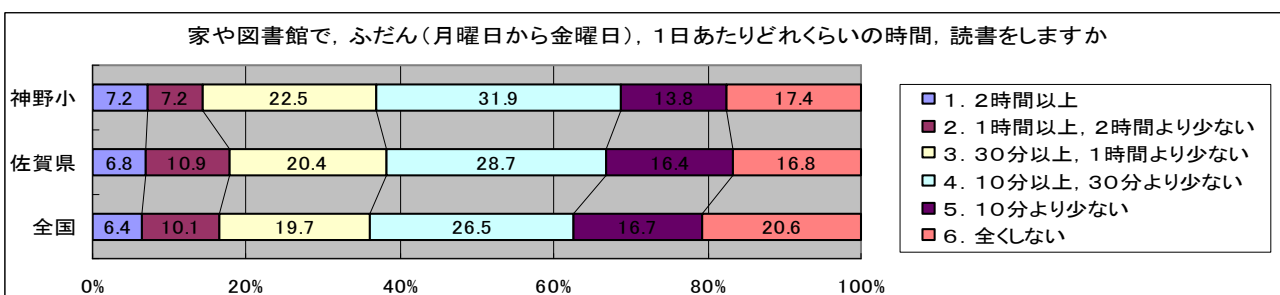


○ 6年生であいさつができていると思う子どもの割合は、56.5%と、県平均の69.0%に比べて低い結果でした。他の学年においても、気持ちのよいあいさつができていないと言えないようです。学校では、児童会を中心に「あいさつ運動週間」を設けてあいさつ推進に取り組み、少しずつですが意識するようになってきました。保護者や地域の方も、子どもたちに気持ちのよいあいさつを投げかけていただくと、子どもたちも励みになると思えます。

〈学習時間等〉



○ ふだん1時間以上家庭学習をする子どもの割合は、71.7%と、県平均の54.2%を大きく上回っており、家庭学習の習慣が身につけているといえます。また、「計画を立てて」や「苦手な教科を」勉強している子どもも県平均と比較して多く、主体的に家庭学習に取り組んでいるようです。今後も自主学習のメニューや子どもの自主学習ノートを紹介して、宿題以外の勉強も進んで行えるようにしていきたいと思えます。



○ ふだん30分以上読書をしている子どもの割合は36.9%で、全国平均や佐賀県平均とほぼ同じ結果でした。全く読書をしていない子どもも17.4%もいました。本校では、低・中・高の学年ごとに、図書室で1年間に借りる本の数の目標を設定しています。朝の読書の時間を使って本の紹介をさせたり、親子読書週間を設けて家庭にも協力を呼びかけたりして、本に親しむ習慣を身につけさせたいと思えます。

3 神野小における今後の学習指導改善の方策

◎ 今回の調査結果は子どもたちの一面を調査したのですが、結果をよくふまえて、今後の神野小学校の子どもたち一人一人のよりよい成長につなげていきたいと考えています。そのための具体的施策として次のようなことに取り組みます。

◆学校では…

- 「わかる授業づくり」のための指導方法の研究と改善を進めていきます。子どもたちの個性や個人差に適切に対応するために、教材や学習材、学習方法や学習時間を工夫します。
- つまずきに対応したり、さらなる追求意欲に応じたりするために、ティームティーチングや少人数授業を取り入れて、個別指導の充実と理解の深化・発展を図ります。
- 学習した内容がよく身に付くように、反復練習を十分に取入れるようにします。つまずきに対応した個別学習や応用・活用力を身に付ける発展的学習にも積極的に取り組みます。
- 「活用力」を伸ばすため、問題解決学習や応用問題など、自分で考えながら学習を進める活動を取り入れます。また、子どもたち同士で話し合い、よりよい解決方法を見出していくような活動を数多く取り入れていきます。
- 現在、朝の時間に取り組んでいる「朝の読書」「わくわく計算」「わくわく音読」「わくわくそろばん」の内容をさらに工夫し、子どもたちに意欲と力が身に付くようにします。また、パソコンを活用した学習も取り入れ、子どもたちが自分の課題やペースに応じて学習ができるようにします。
- よりよい学習習慣が身に付くように、「学びのてびき」を活用したり、教室環境を整備したりして、1年生から6年生までの発達段階に応じて、系統的かつ継続的に指導していきます。
- 体験活動を取り入れ、体験を通して学んだり、教科で学んだことを体験に活かしたりすることができるようにします。

◆ご家庭では…

- 子どもたちが安定した心身の状態で学習や生活ができるよう、基本的な生活習慣の定着にご協力をお願いいたします。今後も「いじめ・いのちのアンケート」「あいさつ運動」にご協力ください。
- 4月に配布した「家庭学習の手引き」を目立つところに貼って、家庭学習にお役立てください。
- 食事や団らんのときに、子どもに学校での話を聞いていただいたり、勉強する様子を励ましていただいたりして、コミュニケーションを図っていただくとよいでしょう。子どもたちが今、どんなことを学習しているか、どんなことに興味を持っているかを知っておくことは大変素晴らしいことです。



☆ 家庭における基本的な生活習慣や学習習慣の定着は、学力を支える重要な要素です。今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。